

BCP策定の重要性

業務継続計画

日本BCP株式会社

- 1、会社紹介
- 2、BCPとは
- 3、BCPの構成
- 4、BCP訓練

会社紹介

会社概要



会社名	日本BCP株式会社	資本金	1億4,700万円（2022年10月末現在）
住所	東京都千代田区神田東松下町48番地 大阪府堺市中区深井東町3099番地	従業員数	200名
設立	2017年9月1日	事業所数	全国9か所（2022年1月現在）
代表	代表取締役社長 角谷 育則		

主な事業内容

- 1.災害に対応するための石油燃料の備蓄及び非常用車両の手配
- 2.非常用発電機の導入施工、点検メンテナンス
- 3.ガソリン、灯油、軽油、重油その他石油製品の輸入・販売
- 4.防災・BCP対策用品の販売

経営目的

総合防災・減災企業として命をつなぐサービスを増進する

会社設立の経緯

東日本大震災を契機に



「東日本大震災」発生後、内閣府からの要請により、当社の親会社にあたるシューワ株式会社で灯油巡回販売中のタンクローリー9台を派遣しました。

約3ヶ月間の復旧活動を経て企業の事業継続を支援する目的で、シューワ株式会社に「BCP事業部」を発足。2017年9月1日に「防災の日」に合わせて日本BCP株式会社を設立しました。



災害時における活動実績

2011年3月 東日本大震災



内閣府からの要請を受け、岩手県の品所に暖房用の灯油を供給し、被災者の皆様に大変喜ばれました。また、瓦礫の撤去作業をおこなう建設用重機の燃料として軽油を補給するなど、復興支援に従事いたしました。

2016年4月 熊本地震



ご契約先様からの要請による燃料供給をおこなう一方、資源エネルギー庁からの要請を受け、福岡・熊本の備蓄拠点にタンクローリー14台（大型・小型）を動員し、24時間体制で燃料供給を実施いたしました。

2019年9月 台風15号/19号（房総半島台風）



関東地方に暴風雨による被害をもたらした台風15号、19号。特に千葉県房総半島に大きな被害をもたらしました。通信キャリア3社、放送局様からの出動要請を受け、現地の信号機が全く作動しない中、現地に燃料を供給いたしました。

2021年7月 伊豆山土砂災害



熱海市伊豆山での土砂災害に関連し、契約先様からの要請を受け、約1週間の間、移動基地局車に対する燃料供給を実施いたしました。

2022年1月 首都圏での大雪



東京都心で4年ぶりの大雪。高速道路上で車が立ち往生。契約先からの要請により、高速道路上で立ち往生した車へのガソリンを供給し、通行止めの解消に貢献しました。



2024年1月能登半島地震対応



BCPとは

Business Continuity Plan

事業 (業務)

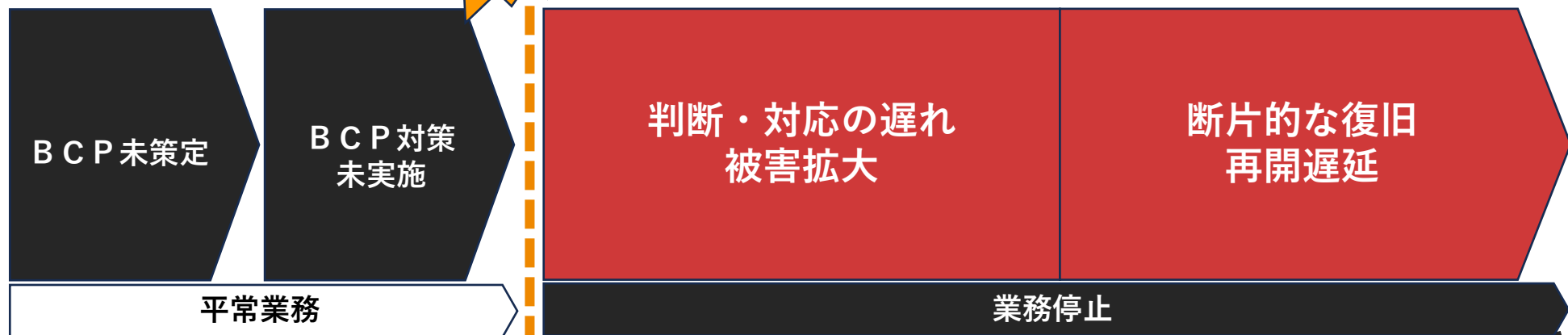
継続

計画

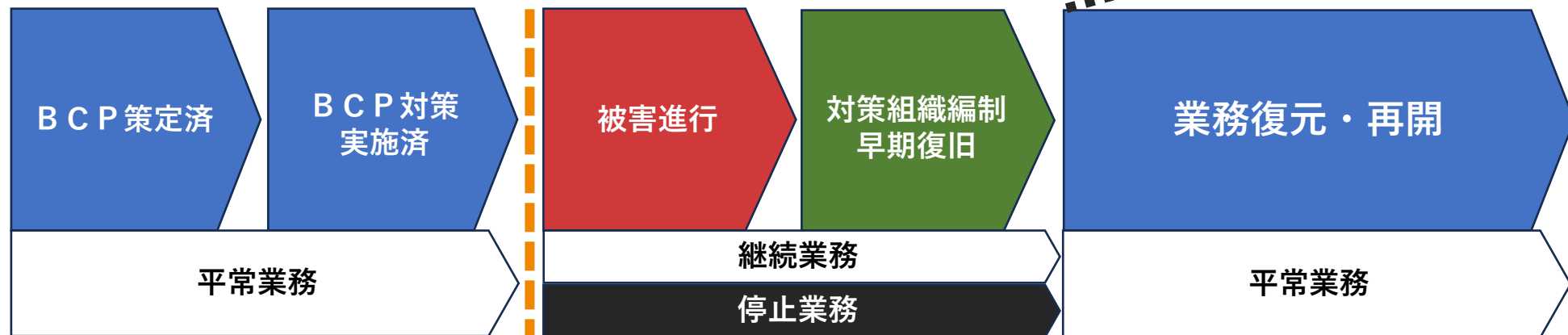
BCPがないと



【BCPがないとき】



【BCPがあるとき】



防災 ≠ BCP

BCP の目的

- 事業を継続する。

防災の目的

- 災害による被害を防ぐ / 軽減する

防災の目的も、
BCPの目的
の中に含まれています。



南海トラフだけを
想定すると
思考停止に陥る



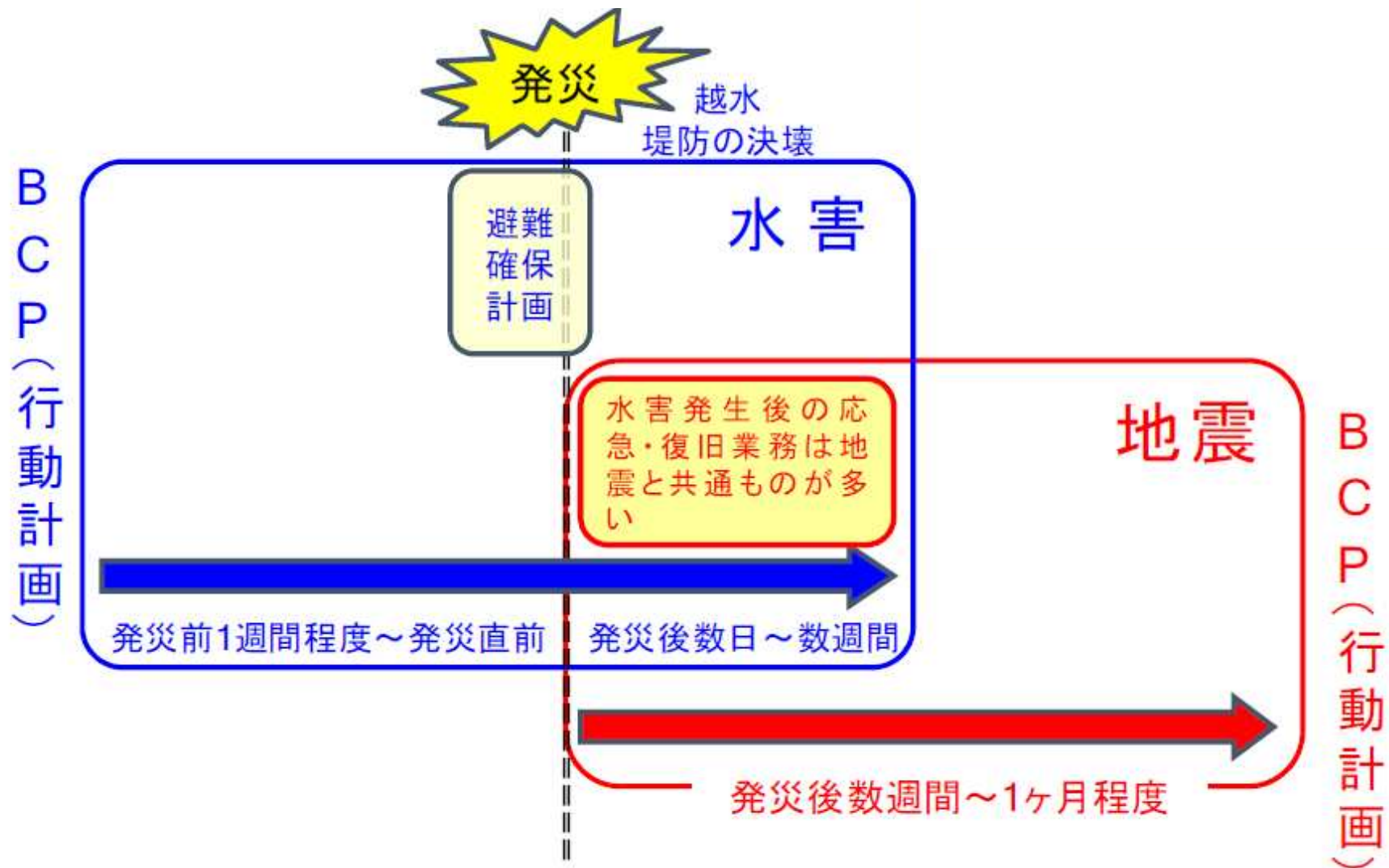
業務継続が困難になる原因

- ・ 停電、断水
- ・ 建物被害（浸水、損傷）
- ・ 通信停止
- ・ システム停止
- ・ 職員不足

これらを引き起こす原因は巨大地震だけではない

風水害BCPの特徴

風水害は予測できる





BCPの構成

BCPの構成

PHASE

1

目的設定

経営理念や基本方針を振り返り、何を守るべきが目標設定する。

PHASE

2

現状確認

施設の立地リスクや設備の状況を把握する。

PHASE

3

優先業務と
リスクの洗い出し

災害時、事業を継続にするにあたって優先すべき業務を洗い出し、選ばれた業務を行うためのリスクを把握する。

PHASE

4

具体策の決定

誰が指揮を執り、だれがその指示を受けて実際に行動するのか等の緊急対応体制を構築する。

目次

第1章 総論	3
1 BCP策定の目的	3
2 事業継続に関する基本方針	3
3 適用の範囲	4
4 文書管理と開示範囲	4
5 BCP策定・管理体制	4
第2章 リスク分析	5
1 想定する災害	5
2 ロケーションリスク	5
3 病院周辺の被害想定	9
4 院内の被害想定	12
5 施設設備の現状	13
6 災害用物品及び備蓄品	20
7 設備停止対策	21
第3章 災害時の対応体制	25
1 BCP発動基準	25
2 災害対策本部	26
3 職員の参集	29
4 業務継続のための措置	31
第4章 非常時優先業務	33
1 優先する業務	33
第5章 災害時の行動計画	37
1 災害時業務フロー	37
2 行動計画	42
第6章 受援計画	52
1 対外的な情報発信	52
2 DMAT	52
3 行政および医療機関等との連携について	53
第7章 事業継続マネジメント(BCM)	54
1 事業継続マネジメント(BCM)の推進	354
2 教育・訓練等	54
3 評価・改善	54
第8章 添付資料リスト	55



PHASE 1 目的設定

PHASE 1 目的設定

・病院の基本方針

基本方針

■ 1. 地域社会への奉仕

高齢化しつつある地域社会に密着して、適切な医療を提供します。また、社会が行う多面的な福祉活動への参画、社会の運営施設を利用する方々の健康管理や医療・健康相談などの活動を行います。

■ 2. 求めにこたえられる医療

日常診療の裡で患者様の声に耳を傾け、また院内設置の御意見箱からの要望をも尊重しつつ、与える医療から応える医療への努力を続け、納得され安心される病院であることをめざします。

■ 3. 医療レベルの維持と職員のモチベーション

進歩を続ける医療に歩調を合わせ、本院の医療レベルの維持に努めるべく、学会や研修会への参加、院内研修会の開催などを通じて、各職員のプロとしての意識、やりがいを盛り上げていきます。

■ 4. 病院として機能的かつ健全な経営

「障害者施設基準の一般病棟」を持つ病院として、院外他施設とは緊密な連携を保ち、院内では各部署間の連携を確立しつつ、健全な病院経営を目指します。

・BCPの目的

1 BCP策定の目的

〇〇病院(以下「本院」という)は、大規模な地震・風水害等自然災害またはそれに類する事態が発生した場合でも、「地域の方々のかかりつけ病院」として病院機能を可能な限り維持または早期に復旧し、病院内の全職員が協力して、初動、急性期から復興期に至るまで切れ目なく医療活動を継続することにより、地域社会の早期復興に貢献するため、本事業継続計画(BCP)を策定する。

←

←

2 事業継続に関する基本方針

本院は、大規模災害時においてもその社会的役割を果たすため、以下の通り基本方針を定める。

1. 本院の医師、看護師、事務員など職員の安全を第一として対応する。←
2. 本院の使命である地域医療を可能な限り継続し、貢献する。←
3. ライフラインや病院施設設備の被害により、診療を停止することになった場合でも、地域の方々のかかりつけ病院としての使命を果たし、慢性疾患のある患者の処方箋の発行を行う。←
4. 災害時の対応を速やかに行うために、地域の災害医療体制の整備について積極的に取り組み、病院機能の維持継続または早期復旧に最善を尽くす。また、独自に訓練を実施するとともに、地域の訓練等に積極的に参加する。←
5. 医療機関としての役割を鑑み、災害時の初動対応から復旧・復興期において、医療行為を通じて地域社会の復興に貢献する。←



PHASE 2 現状確認

1.建物

2.電気

3.水（医療・生活用水）

4.ガス

5.飲料水・食糧

6.医薬品

7.通信・システム

8.トイレ

9.職員

チェックリストを用いて現状把握してみましよう

PHASE 2 現状確認

5 施設設備の現状

(1) 診療機能を有する施設の耐震措置

平成に入ってから建築された建物のため、新耐震基準を満たしている。

(2) 病院施設内人数

項目	人数
入院患者数	59 床
1日の平均外来患者数	110 名
1日の平均職員数	120～130 名

(3) 施設設備の現状

① 電気設備

最大需要電力	
施設全体の最大需要電力	236kwh
月間平均電力使用量	
月間平均電力使用量	73400kwh
受変電設備	
受電方式	1回線受電
転倒防止策	転倒防止装置を設置
自家発電システム	
コージェネレーションシステム	設置なし
非常用発電機	
設置台数	1 台
設置場所	屋上
容量	200KVA
運転可能時間	約 8 時間
発電能力	通常時年間平均電力使用量の 5 割
燃料の種類	軽油
燃料の備蓄量	670L
災害時燃料供給契約	無し

(3) 参集可能人数

勤務時間外に地震が発生した場合に参集が可能な職員数について、職員の居住状況を踏まえ、居住地から徒歩で通勤した際の時間を基に予測する。

	発災後 1 時間	発災後 2 時間	発災後 3 時間	発災後 6 時間	発災後 1 日	発災後 3 日	発災後 7 日
参集率	41.4%	57.8%	72.4%	93.9%	100%	100%	100%
医局	1 名	3 名	4 名	5 名	5 名		
事務局長	0 名	1 名	1 名	1 名	1 名		
総務班	2 名	2 名	2 名	5 名	5 名		
診療班（病棟）	27 名	37 名	50 名	63 名	63 名		
診療班（外来）	5 名	6 名	7 名	7 名	8 名		
外部連携班	2 名	2 名	3 名	5 名	5 名		
検査担当班	3 名	3 名	3 名	3 名	4 名		
医療システム班	4 名	6 名	6 名	9 名	9 名		
薬剤担当班	2 名	2 名	3 名	3 名	3 名		
給食班	0 名	0 名	0 名	2 名	4 名		
物資調達班	0 名	1 名	1 名	1 名	2 名		
施設班	2 名	4 名	4 名	5 名	7 名		

EMIS (広域災害救急医療情報システム) への入力

例：施設用水に関する施設情報

施設用水 FAQ	受水槽	<input checked="" type="radio"/> 有 (容量 10.5 t) 設置位置 地下
	高架水槽	<input type="radio"/> 有 (容量) t <input checked="" type="radio"/> 無
	井戸設備	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無
	平日の使用量 (平均値)	22 t
	休日の使用量 (平均値)	15 t
	優先的な給水協定の締結有無	<input type="radio"/> 有 (事業者名) <input checked="" type="radio"/> 無
	給水車停車位置から受水槽までの必要なホース長	15 m

複数保有している場合、上記の施設用水情報に準じた内容を入力してください。(300文字以内)

例：非常用発電機に関する施設情報

自家発電機関連情報 (1台目)	ハザードマップの考慮	<input type="radio"/> 考慮されている <input checked="" type="radio"/> 考慮されていない
	発電容量	約 22 KVA
	燃料種類	軽油
	燃料量	(10) kL
	※72時間以上が望ましい。	(10) 時間稼働
	給油口規格	名称: 旧ゼネラル 口径: 1.5インチ 形式: 外ネジ
	燃料タンクの場所	2階準備室

例えば

行政

(保健医療調整本部など)



給油

- 燃料はあと何時間持ちますか？
- 給油支援に向かうが、給油口のメーカーや規格は？

給水

- あと何日持ちますか？
- 給水ホースは何m必要ですか？

病院担当者



支援してほしいがすぐにはわからない・・・



停電

断水

災害時に行政から迅速な支援を受けることができるように事前入力しておきましょう！



PHASE 3 優先業務と リスクの洗い出し

継続しなければいけない業務

- ・ 入院患者・在宅患者のケア維持・避難誘導
- ・ 外来患者の帰宅支援
- ・ 災害時トリアージ

停止してもよい業務

- ・ リハビリテーション
- ・ 通常外来
- ・ 相談業務

業務継続手段

- ・ 被害状況確認、代替手段起動
- ・ 患者（入院・外来・在宅）の安否確認
- ・ 職員の安否確認・参集（就業中・非番）
- ・ EMISへの入力

PHASE 3 優先業務とリスクの洗い出し

優先業務の選定

優先業務																
統括																
区分	主担当	業務内容	発生直後（超急性期）				フェーズ1（超急性期）				フェーズ2 （急性期）	フェーズ3 （亜急性期）	フェーズ4 （慢性期）	フェーズ5 （中長期）		
			～10分	～20分	～30分	～1時間	～2時間	～3時間	～6時間	～12時間	～24時間	～48時間	～72時間	～1週間	～1ヶ月	～3ヶ月
情報	各部門	勤務中の職員の安否確認	■	■												
情報	各部門	診療設備が使用可能か確認	■													
体制	管理係	職員の参集状況の把握、報告	■	■												
情報	管理係	非番の職員の安否確認	■													
体制	管理係	参集職員の配置			■	■	■	■	■	■	■	■				
情報	管理係	職員の参集状況を集約					■	■	■	■	■	■	■			
体制	管理係	災害時シフト作成								■	■	■	■			
情報	入院患者対応係	入院患者の安否確認	■	■												
体制	入院患者対応係	空病床の管理			■	■	■	■	■	■	■	■	■			
搬送	入院患者対応係	搬送可能患者の選定					■	■	■	■	■	■				
体制	入院患者対応係	入院患者のご家族への対応								■	■	■	■	■	■	■
情報	外来患者対応係	外来患者の安否確認	■	■												
情報	外来患者対応係	手術中の患者の安否確認	■	■												
搬送	外来患者対応係	搬送可能患者の選定					■	■	■	■	■	■				
体制	外来患者対応係	帰宅困難な外来患者への対応							■	■	■	■				

PHASE 3 優先業務とリスクの洗い出し

リスクの洗い出し

BCP課題一覧

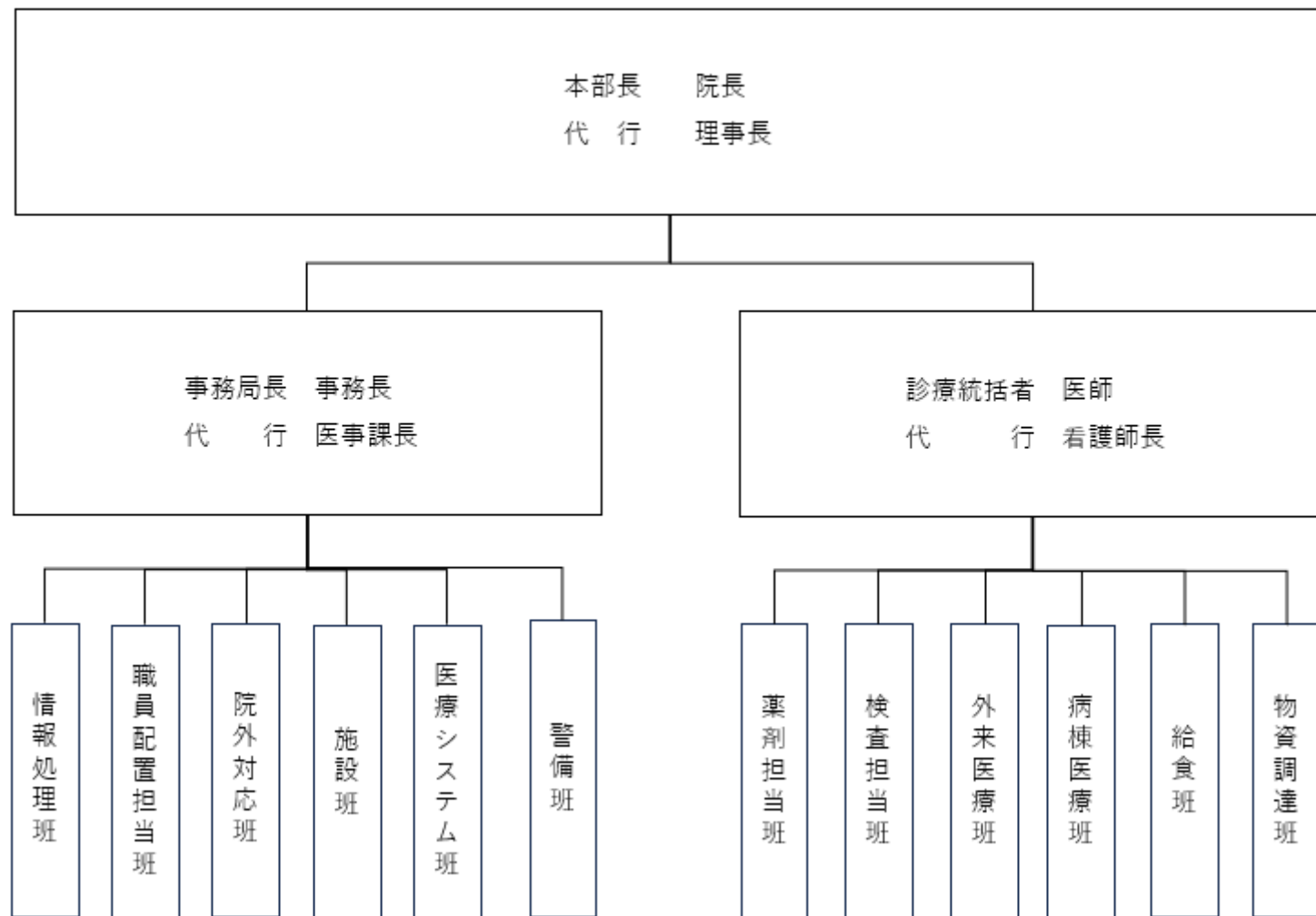
No	項目	課題内容	対応方法	優先度	状況	主担当
1	電気	非常用発電機がどの設備に接続できているか把握できていない	実際に停電させてみないとわからない。(6月予定)	中		
2	電気	A棟非常用発電機が地下に設置されているので浸水被害がでる恐れがある。	止水板等の浸水対策を行う。	高		
3	電気	C棟の燃料タンクが持たないので数時間しか持たない。A棟の燃料をC棟にどうやって運ぶか考えないといけない。		中		
4	給排水	受水槽に非常時専用の蛇口(受水槽給水栓)がなく、災害時に水を取り出せない。	設置を検討する。	中		
5	給排水	A棟受水槽が地下に設置されているので浸水被害がでる恐れがある。	止水板等の浸水対策を行う。	高		
6	ガス	ポータブルコンロやガス缶等、都市ガスに代わる備蓄をしていない。		中		
7	トイレ	上下水道がストップした際、職員や自力で用便可能な患者用のトイレの準備ができていない。		高		



PHASE 4 具体策の決定

PHASE 4 具体策の決定

災害対策本部組織図



PHASE 4 具体策の決定

各班責任者及び代行者一覧

班名	責任者	代行者
情報処理班	医事課 医事課長	医事課 主任
職員配置担当班	総務 主任	総務
院外対応班	医療連携 室長	医療連携
施設班	放射線科 主任	放射線科
医療システム班	医事課 医事課長	医事課 主任
警備班	リハビリ科 主任	リハビリ科
薬剤担当班	薬剤科 主任	薬剤科
検査担当班	検査科 主任	検査科
外来医療班	外来 主任	外来
病棟医療班	病棟 主任	病棟 主任
給食班	栄養科	栄養科
物資調達班	栄養科	栄養科

PHASE 4 具体策の決定

行動計画

業務名	3. 診療提供能力の確認	
方針	診療を行う上で必要な資器材の使用可否について確認を行う。	
担当部門	検査担当班	
責任者 (代行者)	【責任者】 検査科主任	【代行者】 検査科担当
目標レベル	別表チェックリストに定めた医療機器等について確認	
目標時間	<ul style="list-style-type: none"> ・直ちに開始(病棟の場合は入院患者の安否確認後開始)(30分以内) 医療ガスの状況 医薬品の状況 電子カルテの状況 その他医療資器材の状況 レントゲン、CTなど検査機器の状況 血液生化学検査機器の状況 	
役割及び活動内容	責任者	<ul style="list-style-type: none"> 1. 資器材の使用可否の状況を取りまとめ、災害対策本部へ報告 2. 使用不可の資器材がある場合は、対応を指示
	担当者	<ul style="list-style-type: none"> 1. チェックリストに則り各資器材の状況を確認 2. 使用可否の状況を責任者へ報告
必要情報		
体制	<ul style="list-style-type: none"> ・検査科 3名 ・放射線科 1名 	
物品	<ul style="list-style-type: none"> 被害状況等報告書 (検査科) 被害状況等報告書 (放射線科) 	
場所	・各病棟、検査機器設置場所	
課題	・迅速かつ正確に確認するための訓練が実施できていない。	

災害時アクションカード

あなたは
病棟医療班
です

責任者：看護師長
代行者：看護主任

◆勤務中の職員

- 患者・職員の安全確保を行い、二次災害を防ぐ
- 患者・家族と病棟勤務中スタッフの安否確認をする
- 人工呼吸器を装着している患者がいる場合は、最優先で状態を確認する
- 入院患者を重症度に応じて人数把握する。
- 病棟内の被災状況の確認を行い、被害状況報告書を本部に提出する
- 職員参集状況を把握し、不足人員の確保を行う

◆非番職員

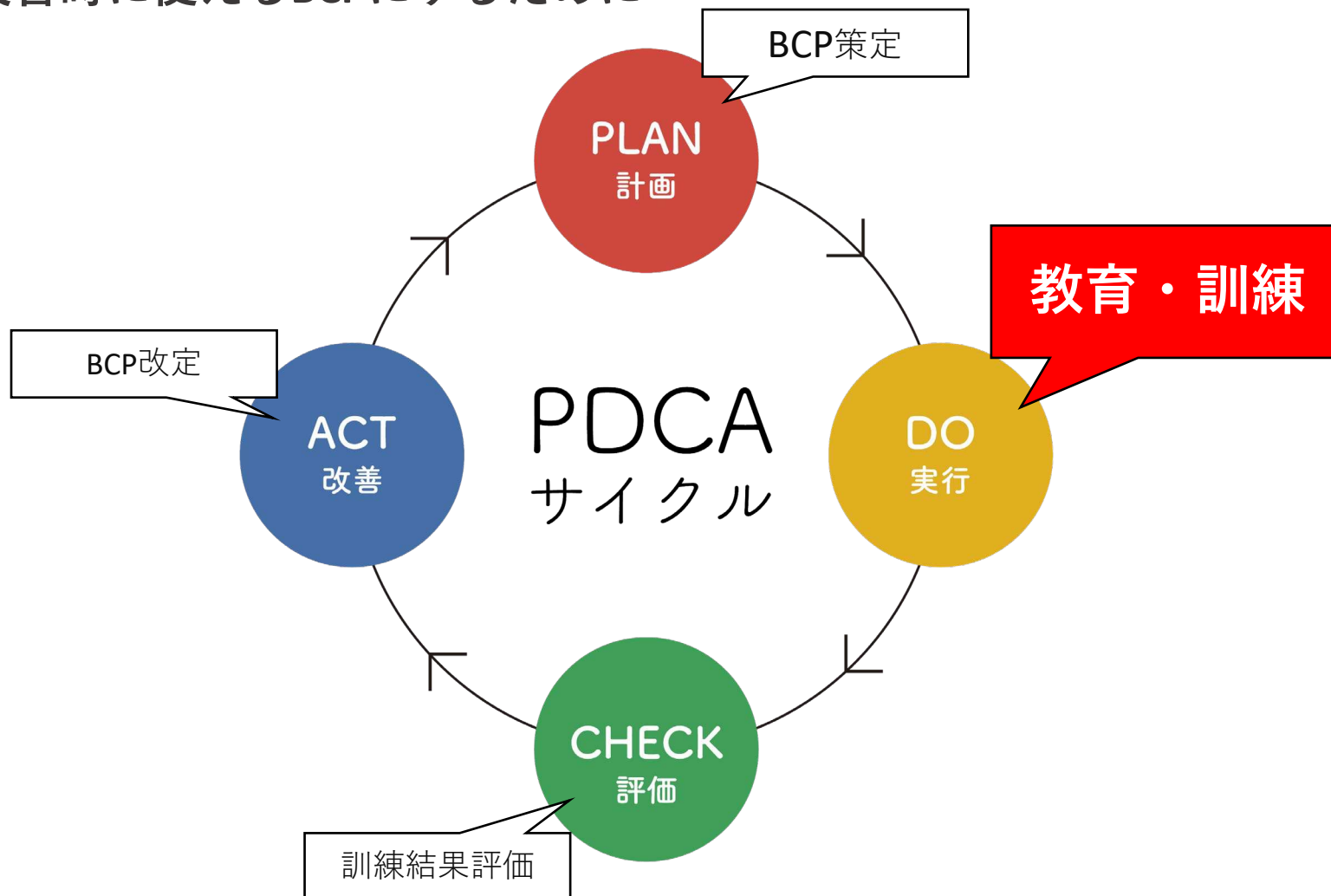
- 自分自身及び家族の安全確保を行い、二次災害を防ぐ
- 病院からの安否確認に返答する
- 参集可能な場合は、必要な資材をもって病院に向かう
- 参集後は責任者もしくは代行者の指示に従う



BCP訓練

継続的な改善

災害時に使えるBCPにするために



年1回の訓練・BCP見直しが必要です。

机上訓練

事前にシナリオを決定し、会議室などで災害対策メンバーを集め、机上で想定される状況を話し合いながら対策を考える訓練です。



20時、震度6弱の地震が発生し、公共交通機関は一定期間停止、施設は停電状態、ガスの供給も停止、水道は無事、という状況でどのように対応しますか？

大型台風の直撃により施設1F部分が浸水。デイサービスフロア及び調理室が使用不可になるとともに、事務所のパソコンも危険な状態になりつつある状況でどのように対応しますか？



防災・BCPに関わるあらゆる課題解決に向けてご提案させていただきます。

Japan **BCP** *Co.,Ltd.*
Business Continuity Plan